

寄贈後初公開の絵巻から 久留米藩の豪商に思い馳せる 〜海山名所図会 里帰り

「海山名所図会」は、江戸時代の久留米藩の豪商・手津屋正助（1753〜1823）が所有した絵巻です。近年は市外在住の正助の子孫の下で保管され、令和4年7月に市に寄贈されました（1ページ参照）。絵巻の「里帰り」を受けて、11月4日（金）・5日（土）、手津屋本店跡に程近い田主丸総合支所において、全5巻を一挙公開しました。各日4時間の限定公開でしたが、地域の方々を中心に、2日間で計125名が、今なお色鮮やかに残る絵巻を間近で鑑賞しました。



会場内の様子

絵巻は保存と展示スペースの観点から、複数一度に展示することが難しいのが現状です。長時間光に当ててしまうと、顔料の褪色や剥落が進むおそれがあります。また、横長の形態であるため、複数展示するには広い空間が必要です。そうした制限があるなかで、今回は全巻を一堂にご覧いただくことができました。

絵巻はケース越しではない露出展示とし、会場では自由に写真・動画撮影ができるようにしました。撮影が可能であると知ると、改めて時間をかけて鑑賞する人も多く見られました。来場者からは、

「貴重な資料が見られた」

「色が鮮明に残っていて驚いた」

「こんなにきれいな状態で保管されてきたのだから、今後も大切に保管していくべきだ」

という声が聞かれました。

一方で、

「今後常設などで展示をしてはどうか」

「全体を撮影してパネルなどを作成し、いつでも見られるようにすれば、本物の関心が高まるのではないか」といったご意見もありました。

短い期間ながら、手津屋が地域の人々にとっていかになじみ深い存在であるかを実感するとともに、今後の保存活用の在り方を考えることができ、里帰りの意義を大いに感じられる展示となりました。

■資料収蔵ご協力のお願い

久留米市では、古文書、古記録、古写真、書画、陶磁器などの工芸品、民俗資料など、様々な資料について「文化財収蔵資料」として収集を進めています。対象となるものは、久留米の歴史文化に関わる資料で、「久留米市文化財収蔵資料審議会」による収集方針に基づき、受入れを行っています。

もし今後、次のようなことがありましたら、ぜひご一報ください。

- ・先祖から伝わった古い書類や写真、道具などがある。
- ・片付けをしていたら古いもの（古文書、古美術品、古い書類など）が出てきた。
- ・古い書類や骨董品の保管について心配事がある。

古いもので判断に迷ったときには、廃棄する前にご相談ください。また、ご自宅での歴史的な資料を保管していただく方法についても、ご不明なことがありましたらお尋ねください。

先人たちが紡いできた地域の歴史を後世に伝えていくためにも、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

【編集後記】

今回初めて収蔵館ニュースの編集を担当しました。実はこの第19号、昨年度のものから4ページ増量しています。寄贈件数の増加に伴い、新収蔵資料の紹介を増やしました。皆様には、本市の収蔵資料と保存活用の取組みについて、より多くの内容をお伝えできたのではないかと感じています。紙面に関するご意見・ご感想、また資料の保存やご寄贈のご相談等、随時受け付けております。今後ともよろしくお願いいたします。

『収蔵館ニュース』第19号

発行年月日 令和5年3月31日

編集・発行 久留米市文化財保護課
久留米文化財収蔵館
〒830-0037
福岡県久留米市諏訪野町1830-6
電話・FAX 0942-38-6194
E-mail bunkazai@city.kurume.lg.jp

「収蔵館ニュース」前号（第18号）はこちらからご覧になれます。

久留米市ホームページ ➡ <https://www.city.kurume.fukuoka.jp> > 「観光魅力・イベント」 > 文化財・歴史 > 刊行物の案内 > 【配布物】収蔵館ニュース